

# 考古かながわ

第9号

1995年9月1日

## 魅力ある歴史の叙述を！

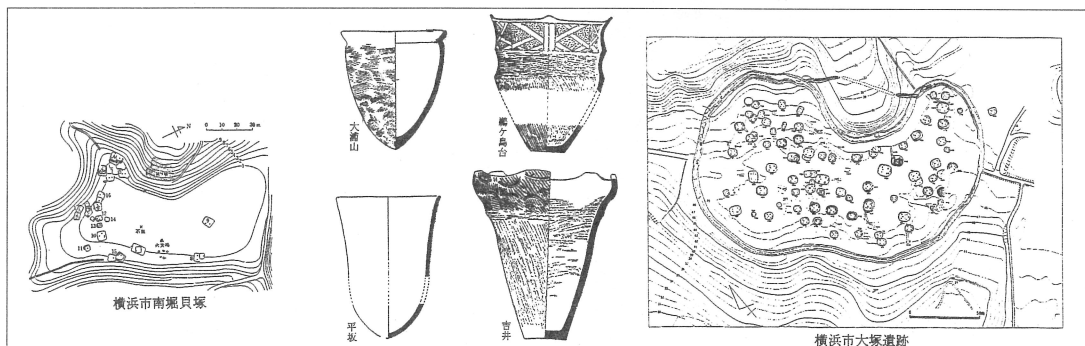
神奈川県考古学会会長  
岡本 勇

神奈川県考古学会が発足してから、すでに四年余の歳月が経過した。この間、機関誌や会報の発行、年次定例の遺跡調査・研究発表会の実施、また遺跡見学会、講演会、入門講座等の開催など、いくたの事業・行事がおこなわれ、まずは順調な歩みをつづけてきた。関係各位のご努力を多としたい。現在、県単位の学会組織の存在は、いわばあたり前のこととなってきた。そうした状況のなかで、本会がいかにあるべきか。またなにをなすべきかは、衆知をあつめて論議すべき問題で

ある。

今年、1995年は、敗戦からちょうど50年の節目の年である。敗戦を境にして、日本の考古学は180度の転換をとげた。その時期に考古学の道を志したぼくらは、神話にとってかわる科学的な魅力ある歴史を叙述したいというのが共通の願望だった。そして、それは地道な地域研究をつみ重ねていくことによって可能であると知らされた。これからもその道を歩んでいきたい。

(本年度総会で役員改選が行われ、幹事会の互選により岡本勇氏が会長に選出され、就任いたしました。)



## 平成7年度神奈川県考古学会総会報告

平成7年度神奈川県考古学会総会は、多数の会員が出席して平成7年6月4日(日)神奈川県政総合センターホールで開催された。

日野一郎会長があいさつ、議長を日野会長に選出したあと、さっそく議事に入った。

各担当から議事の説明、報告をもとに平成6年度の事業報告、収支決算報告、平成7年度の事業計画、予算が議決され、役員が改選された。

小出義治副会長のあいさつで、総会が終了し、引続き日本大学教授亀井正道先生による『人物埴輪の謎』と題して記念講演が行なわれた。

### 議事1 平成6年度事業報告

- ① 『第18回神奈川県遺跡調査・研究発表会』は平成6年9月25日(日)横浜市開港記念会館で、約400名の会員等を集めて開催した。
- ② 研究誌『考古論叢 神奈河』第3集はB5版、100頁、700部を印刷した。
- ③ 連絡誌『考古かながわ』7号は平成6年8月17日に700部を刊行、8号は平成7年3月31日に700部を刊行し、会員に送付した。
- ④ 入門考古学講座『かながわの古代集落』は横浜市開港記念会館で平成7年3月5日(日)に250名の会員が参加して行なわれた。大上周三氏の司会のもとで、文化庁記念物課松村恵司氏の記念講演後にスライドを交えて主要遺跡の発表と討論が行なわれた。要旨を500部印刷。
- ⑤ 遺跡見学会は平成6年6月25日(日)に鈴木重



信氏の案内で『横浜市市ケ尾横穴墓と稲荷前古墳』を見学、55名が参加。また平成7年3月25日(土)に塚田順正氏の案内で『小田原市一夜城』を見学する予定だったが、大雨のため伊藤潤氏の協力を得て箱根町郷土資料館を見学した。参加者10名。

⑥ 役員会は平成6年5月2日、5月21日、7月26日、9月13日、平成7年1月30日、3月20日の6回行なった。開催場所は県政総合センターおよび県立埋蔵文化財センター

### 議事2 平成6年度収支決算報告

収支決算報告監査報告は3頁に記載した。決算報告を監査した結果、公正かつ適正であることが伊東秀吉、土井永好監事から報告された。

### 議事3 平成7年度事業計画

- ① 第19回神奈川県遺跡調査・研究発表会は平成7年9月23日(土)秋分の日(日)に川崎市中原市民館で9時30分から開催する。発表遺跡は11遺跡、講演は県立旭高等学校の上本進二先生による『地震考古学』を予定
- ② 研究誌『考古論叢 神奈河』第4集の刊行についてはB5版100頁、700部印刷、平成8年4月刊行予定
- ③ 連絡誌『考古かながわ』9号は平成7年8月下旬、10号は平成8年3月下旬にそれぞれ刊行予定、700部印刷
- ④ 遺跡見学会は第1回は7月22日(土)大和市神明若宮遺跡を見学予定、第2回は平成8年2～3月に小田原市一夜城を見学する予定
- ⑤ 入門講座は『神奈川の縄文文化の起源を探る』を平成8年3月頃開催予定、詳細は別途連絡
- ⑥ その他は日本考古学協会第61回総会(東海大学)で、県下26の主要遺跡のポスターセッションを実施した。

役員会は5月27日に県立埋蔵文化財センターで開催した。以後随時開催予定。

## 神奈川県考古学会平成6年度決算報告

(収 入)

(単位：円)

節	予算額	決算額	比較増減△	説 明
会 費	1,383,000	1,236,000	△147,000	4・5年度会費 3,000×41=123,000 6年度会費 3,000×348=1,044,000 7年度会費 3,000×23=69,000
機関誌等売上	1,393,000	1,433,900	40,900	発表要旨売上 会 員 1,000×26=26,000 1,200×178=213,600 会員外 1,200×13=15,600 1,300×20=26,000 1,500×159=238,500 考古論叢神奈河 会 員 1,800×150=270,000 会員外 2,300×95=218,500 2,500×53=132,500 業 者 2,500×0.8×50=100,000 考古かながわ 200×13=2,600 入門講座要旨 500×43=21,500 700×203=142,100 500×0.9×32=14,400 見学会 300×42=12,600
雑収入	1,405	61,613	60,208	会場整備費 500×14=7,000 預金利子 3,893 寄付金 49,030 送料収入 1,690
繰越金	547,595	547,595	0	
合 計	3,325,000	3,279,108	△45,892	

(支 出)

(単位：円)

節	予算額	決算額	比較増減△	説 明
会議費	110,000	79,235	△30,765	会議資料代 6,000 会議費 21,715 会場借上 11,520 講師謝礼 40,000
会誌発行	1,480,000	1,338,636	△141,364	考古論叢神奈河3印刷 1,071,200 考古かながわ7・8印刷 164,800 発送・連絡費 97,636 謝礼 5,000
普及啓発	200,000	183,970	△16,030	講師謝礼 45,000 会場借上 11,600 会議費 4,800 考古学講座印刷 122,570
発表会	820,000	400,987	△419,013	発表要旨印刷 309,000 会場借上 13,880 講師謝礼 40,000 設営費 38,107
事務局費	455,000	336,333	△118,667	賃 金 180,000 通信費 112,950 消耗品 43,383
予備費	260,000	5,000	△255,000	慶 弔 5,000
合 計	3,325,000	2,344,161	△980,839	

歳入、歳出計

平成6年度収入 3,279,108

平成6年度支出 2,344,161

執行残高

934,947

(次年度へ繰越)

### 会計監査報告

神奈川県考古学会平成6年度の収支決算報告を監査した結果、公正かつ適正であることを認めます。

平成7年5月10日

監事 伊東秀吉  
監事 土井永好

## 神奈川県考古学会平成7年度予算

(収 入)

(単位：円)

節	予算額	前年度予算額	比較増減	説 明
会 費	1,452,000	1,383,000	69,000	3,000×484=1,452,000
機関誌等売上	1,448,000	1,393,000	55,000	発表要旨売上 会 員 1,200×200=240,000 一 般 1,500×250=375,000 考古論叢神奈河 会 員 1,800×220=396,000 一 般 2,500×160=400,000 考古かながわ 一 般 200×10=2,000 考古学講座要旨 700×50=35,000
繰越金	934,947	547,595	387,352	
雑収入	1,053	1,405	△352	
合 計	3,836,000	3,325,000	511,000	

(支 出)

(単位：円)

節	予算額	前年度予算額	比較増減	説 明
会議費	130,000	110,000	20,000	会議資料代 10,000 会議費 60,000 会場借上 20,000 講師謝礼 40,000
会誌発行	1,310,000	1,480,000	△170,000	考古論叢神奈河4印刷 1,000,000 考古かながわ9・10 180,000 発送・連絡費 130,000
普及啓発	335,000	200,000	135,000	講師謝礼 120,000 会場借上 20,000 会議費 20,000 資料印刷費 100,000 発送連絡費 65,000 保険料 10,000
発表会	820,000	820,000	0	発表要旨印刷 600,000 会場借上 60,000 講師謝礼 40,000 設営費 120,000
事務局費	600,000	455,000	145,000	会員名簿印刷 200,000 発送・連絡費 60,000 他
予備費	641,000	260,000	381,000	
合 計	3,836,000	3,325,000	511,000	

◎神奈川県考古学会では事務局の強化に伴い、織笠明子、大倉 潤の各氏にお手伝いいただいています。

◎郵便振替口座番号が変わりました。  
新しい番号は 00240-9-71208

## 日本考古学協会第61回総会

5月19・20日に、標記総会が、東海大学湘南校舎で開催された。参加者総数は約3,000人と、盛会であった。記念講演は、V. ニコロフ（ブルガリア）、岡本勇、両先生であった。ニコロフ先生の講演は、東欧の新石器文化がテーマである。これまで国内では紹介されることのなかった分野で、興味深いものであった。岡本先生は、弥生時代の巨大竪穴住居を扱われた。先生ご自身がながくあたためていたテーマとのことで、調査時の感慨が直に伝わってくる熱い講演であった。研究発表は、平塚市原口遺跡以下、22本。こちらも熱気につつまれていた。

さて、私は、東海大の考古学の一員として、今、総てを終えて本当にほっとしている。今度の総会をやりとおさせた原動力は、二つの『想い』であった。一つは、「神奈川で総会を！」と願う、県内でながく考古学に関わってきた人達の『想い』であり、他は「神奈川の今を示したい」とする、若手・中堅の研究者層の『想い』であった。

この『想い』に応えるべく努める中で、多くの人達と意見を交す機会を持った。これが将来に向けて我々のみならず、県内考古学の財産になることは言うまでもない。大学としても個人としても、貴重な体験をさせていただいたことに感謝している。

(近藤英夫)

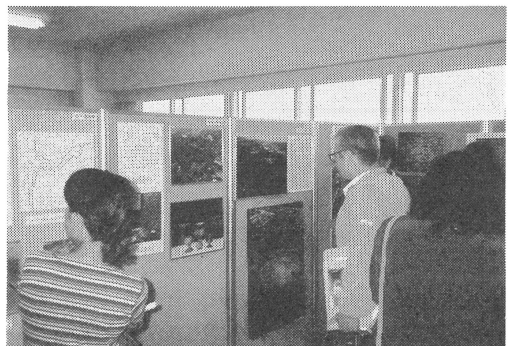


日本考古学協会第61回総会記念講演(岡本勇氏)

## セッション'95—神奈川の遺跡展—

日本考古学協会総会が東海大学で開催されるにあたり、5月21日には本会と総会実行委員会との共催で、パネル展示「セッション'95神奈川の遺跡」が行われました。これは、日本考古学協会の総会が県内ではじめて開かれることであり、「神奈川県の遺跡の特徴を全国の多くの研究者に知ってもらいたい」「神奈川県内の、できるだけ多くの研究者に関わりをもってもらいたい」という、東海大学側関係者の熱意によって企画されたもので、本会も全面的に協力して実施されました。展示されたのは旧石器時代から近世までの、26タイトルでしたが、①時期的に偏ることなく②地域的に偏ることなく③神奈川を考古学的に特徴づけられるような遺跡、④大規模な遺跡はもちろん、できれば地域的な特徴を示すもの、⑤速報性を重視するということが選定されました。その結果、海蝕洞穴や「やぐら」など、あわせて24地域の遺跡を21団体（個人）により発表することができ、バラエティーに富んだ神奈川の考古学的状況をよく示す展示となりました。絶えることなく見学者が訪れ、熱心に見ている方々も多く、おかげさまで好評をいただき終了することができました。終わりに、パネルの製作・運搬・飾付けに協力いただいた方々に感謝をいたします。

(曾根博明)



## 第19回神奈川県遺跡調査・研究発表会のお知らせ

1995年度神奈川県遺跡調査・研究発表会を下記により開催致しますので、お誘いあわせのうえ、ご参加ください。

1 期 日 平成7年9月23日(土)秋分の日

2 開催場所 川崎市中原市民館(案内図参照)  
川崎市中原区小杉3-262-1  
(Tel) 044-722-7171

### 3 発表内容

開会のあいさつ 9:30 …… 岡本 勇会長

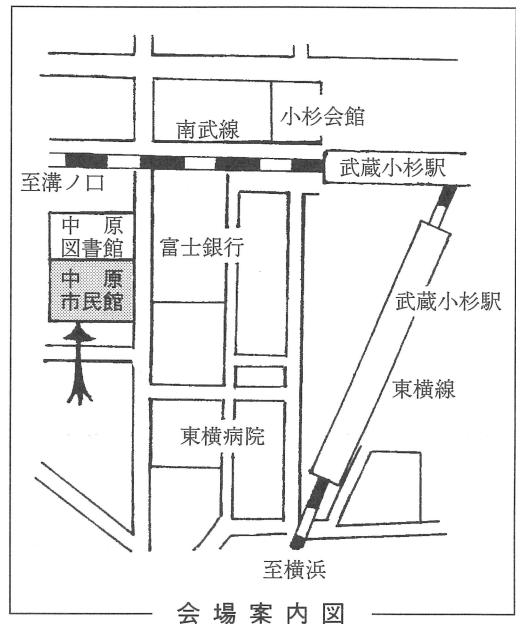
- 1 相模原市横山5丁目遺跡(先土器・旧石器時代)横山5丁目遺跡発掘調査団 長沢邦夫
- 2 宮ヶ瀬遺跡群北原遺跡(縄文時代)財団法人かながわ考古学財団 市川正史
- 3 横浜市阿久和宮腰遺跡(縄文時代)阿久和宮腰遺跡発掘調査団 中山 良
- 4 三浦市油壺遺跡(縄文時代)三浦市教育委員会 須田英一
- 5 藤沢市若尾山遺跡(弥生時代)若尾山遺跡発掘調査団 継 実
- 6 伊勢原市東名No.14遺跡(古墳時代)財団法人かながわ考古学財団 宍戸信悟

記念講演 『地震考古学について』 ……

神奈川県立旭高等学校

上本進二

- 7 川崎市久本横穴墓群(古墳時代)久本横穴墓群発掘調査団 後藤喜八郎
- 8 平塚市構之内遺跡(古代)平塚市遺跡調査会 上原正人



- 9 鎌倉市永福寺跡(中世)鎌倉市教育委員会 福田 誠
- 10 足柄上郡山北町河村城関連遺跡(中世)河村城関連遺跡発掘調査団 安藤文一
- 11 小田原市小田原城三ノ丸小学校遺跡(近世)小田原城三ノ丸小学校遺跡発掘調査団 小林義典

閉会のあいさつ 4:25 …… 寺田兼方副会長

### 文献交換会

当日文献交換会を行ないます。文献交換を希望される団体は9月13日まで、川崎市教育委員会文化課服部隆博(☎044-200-3306)まで申し込みください。

#### 会員名簿を作成いたします。

同封のはがきで氏名、住所、電話番号を記入のうえ、返送ください。なお、御意見のある方は書き添えてください。

## 大和市神明若宮遺跡見学会

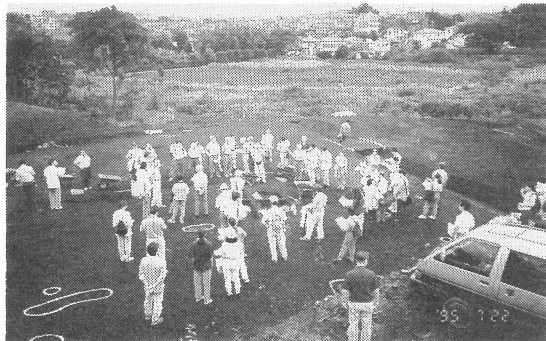
遺跡見学会のお知らせが届いた。「見学遺跡 大和市神明若宮地区内遺跡」とある。私は地元、大和市の遺跡が取り上げられることを嬉しく思うと同時に、この遺跡についての知識がゼロだったことに気づいて反省させられた。

この遺跡は、市域を流れる引地川を見下ろす丘陵の縁に立地していてA～C地区に分けられ調査が進められていた。目下C地区の近世遺構が調査中である。入居館址が中心で大規模な遺構が多かったが、中でも興味を引いたのが梵鐘鑄造址であった。全国3例目の検出とあって貴重である。調査が終了していたA地区と表土剥ぎの段階のB地区からは、それぞれ先土器時代と縄文時代、縄文時代と古墳時代の遺構・遺物が確認されていた。

調査団の滝澤亮さんと小池聡さんに丁寧な説明を受

け、私達はすっかり充実した気分になっていた。ちょうどこの日は、梵鐘鑄造址を残す神社で縁日が開かれるようだった。めんめんと続く人々の日常を垣間見た目にはなんとなく感慨深く映った。他の60余名もそれぞれの思いを胸に抱いていたのではないだろうか。

(東海大学学生 勝山百合)



## 新 役 員 の 横 顔

**副会長 寺田兼方** 力不足ですが、皆さんのお役にたつようがんばります。

**総務担当 小川裕久** みなさんと一緒に楽しくできればと思っています。**村田文夫** 2期会誌『考古論叢神奈川』の編集を担当し、世間から一定の評価をえるようになった。今後総務という立場から会全体が一段と良い評価が得られるようがんばりたい。

**研究誌担当 川口徳治朗** ひらかれた研究誌がお届けできるよう頑張ります。**岡本孝之** まじめに努力します。大森文化ががんばります。**鈴木重信** とりあえず、できることから、そしてできることは精一杯取り組もうと思っています。皆様の御指導をよろしくお願いいたします。

**連絡誌担当 白石浩之** 普及啓発の仕事で2期担当しましたが、三浦半島の貝塚めぐりや海蝕洞穴めぐりは、ハードでしたが、思い出にのこります。情報誌としての紙面づくりにがんばります。**明石 新** 市民による市民のための神奈川県考古学会を目指したいといますので、多くの方の御参加をお願い申し上げます。**後藤喜八郎** 考古かながわ担当編集3期目です。新しい紙面づくりに挑戦したいと思います。**大塚眞弘** 横須賀に勤めて25年、典型的な井の中の蛙になりました。これを機会に周りの地域を学習させていただきたいと思っています。**松尾宣方** 考古学会の仕事に早くなじんで、より良い会をつくるよう努力します。御指導お願い

たします。

**普及担当 曾根博明** 『とほほほ・・・』泣き(解説残留のうれしさに)、**降矢順子** 頑張ります。よろしく。論叢に原稿がかけるよう勉強します。**近藤英夫** この春協会の総会にかかわり、神奈川の遺跡と格闘してきた先学達の偉大さを再確認しました。引き継げるようがんばります。**土井永好** 発足から4年間監事ということで、会計監査をやってきました。以後2年間は普及担当の幹事として努めさせていただきます。**諏訪間順** 最年少ですので、下働きをすることになりますので、よろしく願いいたします。**伊丹 徹** プービー賞的序列に甘んじています。鉄砲玉として頑張りますので、よろしく願いいたします。

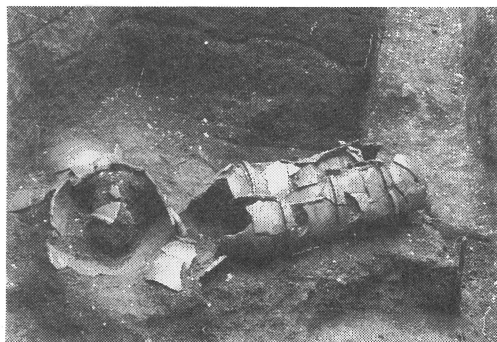
**会計 織笠 昭** 会計の使命はひとつに「しめる」ことですが、同時に会員の皆さんからお預かりした大切な会費を如何にして有効活用するか、そのペースをつくるために、御協力お願い致します。**中村若枝** 誰でも入会できる神奈川県考古学会で、地域の人々と語り合える考古学を!

**監事 伊東秀吉** 研究面の深化と市民による文化財に対する普及の二面を調和をもたせながら進めさせていきたいと考えています。**金子皓彦** このたび普及の仕事から監事になりました。公正な監査に心掛けたいと考えています。

### 伊勢原市小金塚古墳

本墳は、伊勢原市高森字小金塚に所在する円墳である。伊勢原市の東端部に位置しており、相模川の支流である玉川と渋田川の支流の歌川に挟まれた丘陵上にある。この丘陵は丹沢山塊より樹枝状に展開しており、古墳は標高30mの丘陵先端に立地している。丘陵下には肥沃な沖積低地が広がっており、遠方まで古墳の雄姿が確認できることから被葬者にとっては最高のロケーションと言って良いだろう。本墳は、古式の様相をもつ埴輪片の存在が伊勢原市教育委員会によって早くから指摘されてきた。南関東でも最古の埴輪をもつ古墳の可能性から神奈川県教育庁文化財保護課では古墳の様相をより深く理解するために、古墳の測量と周溝確認の発掘を実施することになった。調査は、1984年2月に久保哲三によって実施された。測量の結果、東西46.9m、南北48.9m、高さ6.2m以上の大型円墳であることが判明した。周溝確認のトレンチからは、数多くの埴輪片と伴に大型の朝顔形円筒埴輪が溝底より出土するという大きな成果が上げられた。精巧な技術によって作製された埴輪の存在は、幾内政権との関わりが指摘できる。埴輪の特徴からみて、本墳は四世紀末には存在したことが考えられる。相模川右岸中流域の首長者の性格を考察する重要な古墳である。

(後藤喜八郎)



朝顔形円筒埴輪出土状況

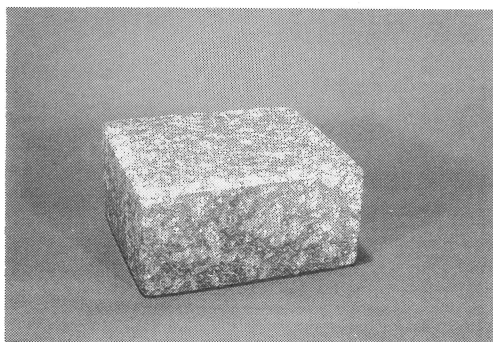
### 石の使い方いろいろ

遺跡を調査すると、必ず石を使った製品が多く出土する。石は堅いが、その性質(石の目)を利用すれば、以外と加工しやすい。縄文時代の打製石斧は、目的とする製品の石と、石を加工するための石を選んでいる。多分、長年の生活の知恵から生まれたものである。

写真は、平塚市山王B遺跡から出土したもので直方体で、角は面取りされている。大きさは、縦13.1cm・横11.6cm・厚さ6.5cm、重さ2.5kg、石質は蛇灰岩である。この石は平安時代(9世紀中頃)の住居址の竈付近の床面から出土したものである。当初、全くその用途が分からなかったが、やっと、古代の医療具の一つである「温石(おんじゃく)」であることが分かった。延喜式卷三七の典薬寮にも記載されている。

温石は直接火で温めるか、熱い湯に浸して温めるなどして、患部に当て、温熱効果を利用した療法の一つと考える。リュウマチや腰痛に用いたものであろうか。何となく現代人と古代人の共通の病の悩みを垣間見たようで、古代人が身近に感じる。因みに、県内では秦野市草山遺跡、海老名市本郷遺跡から出土している。全国的に見た場合の出土例は以外と少なく、官衙遺跡や仏教関連遺跡からの出土例が多い。石にも様々な用途があるので紹介した次第である。

(明石 新)



(古代の治療具「温石」平塚市教育委員会提供)

## 情報案内

### 考古学講座

- 神奈川県立埋蔵文化財センター『県民アカデミー考古学を学ぶ—海に開かれた日本列島—』  
10/6～11/22 申込制

### 講演会

- 榊淵規彰『中世の逗子』逗子市立図書館  
9/8(金)19:00～
- 阪本宏児『発掘された近代日本—【新しい時代】の考古学—』神奈川県立埋蔵文化財センター  
9/9(土)14:00～ 申込制
- 砂田佳弘『さがみはらの石器とその時代—先土器・岩宿・日本旧石器—』
- 木村衡『相模原の遺跡—文化財保護の現場での雑感—』相模原市南市民ホール  
9/16(土)13:30～  
(申込制 神奈川県立埋蔵文化財センター)
- 小林泰文『池子のやぐら・墓地』逗子市立図書館  
10/13(金)19:00～
- 加藤千恵子『縄文時代の石器について』(申込制 神奈川県立埋蔵文化財センター)  
10/14(土)14:00～
- 榊淵規彰『近世の池子』逗子市立図書館  
11/17(金)19:00～
- 新開基史『近代の池子』逗子市立図書館  
12/8(金)19:00～

### 研究発表会

- 川崎市中原市民館『神奈川県考古学会第19回神奈川県遺跡調査・研究発表会』  
9/23(祝)9:30～
- 横須賀市人文博物館『郷土研究発表会』  
11/3(祝)10:00～
- 横須賀市人文博物館『第3回三浦半島地区遺跡調査地区遺跡調査発表会』  
11/5(日)10:00～
- 『平成6年度発掘調査成果発表会』  
県政総合センター(申込制 神奈川県立埋蔵文化財センター・財かながわ考古学財団)  
11/19(日)10:00～

### 特別展

- 『平成6年度発掘調査成果パネル展示会』  
県政総合センター(神奈川県立埋蔵文化財センター・財かながわ考古学財団)  
11/13～11/19
- 『臼久保A遺跡—茅ヶ崎北部の古代遺跡』  
茅ヶ崎市市民ギャラリー(財かながわ考古学財団)  
1/18～1/28(但し月・祝休み)

### 見学会

- 横浜市歴史博物館『ふるさと横浜探検4—鶴見川流域の古墳をたずねて—』平成8年1/30(火)9:00～ 参加費500円 申込制
- 横須賀市教育委員会『市民史跡・文化財めぐり—浦賀・西浦賀地区—』申込制 有料  
10/22(日)

◆1995年度の会費納入についてのお願い◆  
会の運営は会費によってまかなわれています。未納会員はなるべく早めに下記にお納めください。なお、川崎市中原市民館で開催される遺跡調査・研究発表会会場でも受付けておりますので、ご協力をお願い致します。事務局より

### 編集後記

長雨の梅雨が一転して、厳しい暑さですがお元気でお過ごしのことと存じます。編集がこのたび代替わりし、予期したとおりの四苦八苦、ようやく皆様のお手元にお届けすることができました。この連絡誌が少しでもお役にたてば幸いです。

### 考古かながわ 第9号

発行 神奈川県考古学会  
発行日 1995年9月1日  
編集者 白石浩之、大塚真弘、明石 新  
松尾宣方、後藤喜八郎  
事務局 東海大学文学部考古学研究室内  
〒259-12 平塚市北金目1117  
郵便振替 00240-9-71208  
神奈川県考古学会  
印刷所 有限会社 長谷川印刷